

審判必携

令和7年度 ABC全国小学生選手権群馬県予選

本大会は、日本協会で実施する1種全国大会の予選会となっています。1種大会の予選会として、ローカルで規定する事項以外は、日本協会の競技規則に則って行います。

運営にご協力いただく皆様におかれましては、審判資格を保有するかこれに準じた試合進行ができるように、競技規則をご一読いただきますようお願いいたします。各クラブの代表者におかれましては、ご協力いただく皆様に競技規則の習得について特段のご配慮をお願いいたします。

1. 服装

- ① 選手の服装は、競技規則に従い日本協会の検定品を着用し、背中に選手名とクラブ名を記載したゼッケンをつけてください。ゼッケンや文字の大きさについても関東大会や全国大会では規程に沿って計測されます。できるだけ競技規則に沿った大きさのものを用意してください。
なお、本大会では計測は行いません。また、文字が明確に記載されていれば可とします。
- ② 選手は、上衣を下衣に入れてプレーすることとします。主審は、上衣が出ていることに気がついたらラリーの間などに下衣にいれるように指示してください。インターバルの際には、着衣を確認してください。
- ③ 「コーチ（監督を含む、コーチ席に座る人）」は競技規則委に沿った服装とします。但し、熱中症対策として、上衣については、関東TシャツもしくはチームTシャツ、バドミントンメーカーの作製するTシャツ、下衣については、日本協会検定合格品の短パン及び七分丈等のショート丈のパンツは可とします（ショート丈のパンツは検定品以外でも可としますが、スポーツ活動に相応しい色、柄としリゾート用のバミューダパンツなどは不可とします）。
- ④ 「主審」は、競技規則に沿った服装又は競技選手のサポーターとして試合（マッチ）をコントロールする立場になりますので、それに相応しい服装（スポーツウエア、ショート丈のパンツなどは可）、身だしなみを心がけてください。問題があると思われる場合は、声をかけさ

せていただくことがあります。

- ⑤ 競技委員、運営委員もコーチ、主審に準じた服装でお願いします。

2. 主審はコート割当で行います。

- ① 主審は、基本的ルールを理解している中学生以上でお願いします。
- ② 主審は、ポイントをコールするだけでなく、選手やベンチの指導者にも注意をはらい、競技が適正に行われるように「マッチコントロール」をお願いします。
- ③ ジャッジに疑問などがあれば、遠慮なく速やかに本部にお知らせください。

3. ポイント

プログラムに記載のとおり。

4. 試合（マッチ）の進行

（マッチの始め）

- ① 主審は、本部席に向かいあう側に立って行ってください。
- ② 選手が集合したら、ゼッケンでクラブと名前を確認し、審判用紙と合っているか確認。
- ③ 姓だけでなく名前も確認。
- ④ 選手の持ち物は、主審の立ちサイド（ショートサービスライン付近）に置く。
- ⑤ 水筒や飲料容器は直接床に置かずバッグに入れておく。クーラーボックスのハードケースは使用不可、ソフトケースはコーチング席に置くこと。
- ⑥ 滑る止めの雑巾は使用不可。
- ⑦ トス（コイントス又はじゃんけん）は観客席の側のエンドに選手を呼んで行う。勝ったほうに「エンド」か「サービス又はサービスレシーブ」を選択させる。負けた方には、勝った方が選択した以外のものを選択させる。

- ⑧ トスの結果、主審から見て右サイドの選手の名前の横に、「R」と記載し、左サイドの選手の名前の横に「L」を記入する。
- ⑨ 試合前練習はタイマーを使い、3分間の練習を行う。シャトルは持ち寄りです。
- ⑩ 練習が終了したら、汗拭き、水分補給など試合の準備をさせ、準備が整ったらコートに入るように促す。
- ⑪ 右側の選手から（オンマイライト）「名前・チーム名」をコールする。続いて、左側の選手を（オンマイレフト）「名前・チーム名」をコールする
- ⑫ 続いて、サービス側の選手「名前」トゥ サービス トゥ「名前」をコールし、「ラブオールプレイ」とコールし試合を始める

（インターバル）

- ① インターバルになったら、得点及び「インターバル」とコールし同時にタイマーを押す。
- ② 正規ルールでは、11点で1分間、ゲーム間で2分間。ファイナルゲームの11点ではインターバルの間にチェンジエンス（エンド（ネットを挟んで「左右」を交替）する。
- ③ 15点ゲームではゲーム途中でのインターバルはありません。ファイナルゲームではどちらかの選手が8点を取ったら、1分間のインターバルをとりその間にチェンジエンスを行う。

（ゲーム終了）

- ① 21点ゲームでは20点のとき、ポイントのコールのあと「ゲームポイント」とコールし、その後に相手のポイントをコールする。
- ② 1ゲームを勝った方が2ゲームにゲームポイントとなったときは、「ゲームポイント」の代わりに「マッチポイント」とコールする。
- ③ 「ゲームポイント」、「マッチポイント」は1回コールすればよく、延長になって再びゲームポイントの状況になってもコールしない。

- ④ ゲームの最終得点になったら、ポイントをコールしたあと「ゲーム」とコールする。
- ⑤ さらに、「ゲーム ワン バイ (勝った選手の名前)、(ポイント)」をコールする
- ⑥ 試合終了の場合は、「マッチ ワン バイ (勝った選手の名前)」をコールし、さらに、試合終了時にはすべてのゲームのポイントをコールする。

(勝者の確認)

- ① 勝った選手に得点を確認してもらい、勝者にサインの欄にサインをもらう。
- ② 最終得点を上段に記入したら、勝者の名前を大きく○で囲む。

(次の試合の線審)

- ① 試合を終了した選手は、試合終了後にそのコートで線審をする。
- ② 準決勝以降は敗退した選手を指名する。
- ③ トイレや着替えをする場合は速やかに行うように配慮するか、長くかかりそうだったり、続けて線審ができない場合は代わりを見つけるように促す。

5. 線審への配慮

- ① 正しい位置に配置しているか確認する。
- ② ライン付近の判断は線審が行う。
- ③ ライン付近にシャトルが落ちたら線審の目や表情をみながら線審のジャッジを確認する。
- ④ ジャッジが正確に行われたと思わったら、小さくうなずいてあげると線審とのコミュニケーションがうまくいく。
- ⑤ 線審のジャッジの前に、主審の判断で次に進まない。
- ⑥ 線審は、主審がジャッジを確認するまで、「アウト」「イン」のジェスチャーをやめないようにする。
- ⑦ 線審のジャッジが明らかに間違っていたら、オーバーコールをしてください。「アウト」のコールを覆す場合には「コレクションイン」、「イン」のコールを覆す場合は「コレク

ションアウト」とコールしてください。

- ⑧ オーバーコールした場合は、選手にそのことを説明してあげるといいと思います。

6. 得点板への配慮

- ① 正しい得点が表示されているか常に確認する。
- ② 線審が兼ねているときは、点めぐりに時間を要するので、正しい得点が表示されるまで、選手にラリーを始めるのを待つように促す。

7. 選手への配慮

- ① フットフォルト、サービス高などのサービス時のフォルトについては、気づいたら速やかにフォルトを宣告すること。
- ② バックハンドのいわゆる「ロングサービス」を行う際には、打点が規定より高くなることもあるので注意する。
- ③ 羽の部分の先に打ったり、シャトルに回転をかけて打つ「スピンサービス」は禁止。気がついたら「フォルト」とコールする。
- ④ 構えてからサービを始めるのに時間がかかるなどの遅延行為（構えてから5つ数える間にサービスを始めない場合は「遅延」に当たる可能性が高い）や、相手に向かって大きく拳を上げるなどの不適切なふるまいをする場合には注意してください。
- ⑤ 本大会は、県内の上位選手が参加できる大会ですので、競技規則に沿って審判をお願いします

8. コーチへの配慮

- ① ラリー中のアドバイスや応援は規則違反になります。そのような行為に気づいたら注意する。又は本部にお知らせください。

- ② 主審や線審への抗議は認められていません。また、線審のジャッジの前に判定に影響を与えるような行為は禁止。そのような行為があった場合は本部席の競技役員を呼んでください。
- ③ 個人戦では、主審に質問ができるのは、選手のみです。

9. 本部席のヘルプ

- ジャッジや選手、指導者の行為に疑問があったりする場合は本部席の競技役員を速やかに呼んでください。

※本「審判必携」は一部に本大会のためのローカルルールを定めています。競技規則との差異についてご注意ください。

(令和7年6月21日 群馬県小学生バドミントン連盟)